

## 令和6年度大船渡市 I L C 推進協議会総会 議事録

### 1 開催の日時及び場所

- (1) 日時 令和6年8月26日(月) 午後2時から午後2時30分
- (2) 場所 大船渡市民文化会館 1階 会議室1・2

### 2 会員数 30人

### 3 出席者

#### (1) 会員 20人

- 大船渡市 I L C 推進協議会 (会長 瀧上清)
- 岩手県トラック協会大船渡支部 (会長 新沼学)
- 岩手県立大船渡高等学校 (校長 石井美樹子)
- 大船渡金融団 (当番幹事 高野橋伸)
- 大船渡港振興協会 (会員 橋爪博志)
- 大船渡港物流強化促進協議会 (会員 中島卓也)
- 大船渡国際港湾ターミナル協同組合 (理事長 細川廣行)
- 大船渡五葉ライオンズクラブ (幹事 中澤武義)
- (一社)大船渡市観光物産協会 (会長 齊藤俊明)
- 大船渡市議会 (議長 伊藤力也)
- 大船渡市社会福祉協議会 (総務課長補佐 石橋厚子)
- 大船渡市小・中学校長会 (会長 佐々木哲)
- 大船渡市水産振興連絡会 (会長 和田豊太郎)
- 大船渡市農業協同組合 (囑託 及川善文)
- 大船渡商工会議所 (会頭 米谷春夫)
- 大船渡西ロータリークラブ (会長 山口徹)
- 大船渡ライオンズクラブ (会長 鈴木真弓)
- 大船渡ロータリークラブ (会長 伊藤博)
- 大船渡市教育委員会 (教育長 小松伸也)
- 岩手県沿岸広域振興局経営企画部大船渡地域振興センター (所長 寺澤敬行) (※オブザーバー)

#### (2) 事務局 7人

- 大船渡市副市長、I L C 推進室長、I L C 推進室次長、商工港湾部長、企業立地港湾課長
- 都市整備部長、建設課長

### 4 議事の経過

午後2時に大船渡市 I L C 推進室長の進行で開会した。

はじめに、本協議会瀧上清会長から下記のとおりあいさつがあった。

I L C に関しては、現在、非常に大切な時期にあり、早晚、重要なタイミングが訪れるのではないかと言われている。この詳細については、総会後の岩手県佐々木副知事による講演で解説いただけるものと考えているが、世界に目を転じると I L C を取り巻く環境が変わりつつあり、すなわちヨーロッパ、中国、そして、アメリカで、大型加速器を巡る新たな動きが顕在化する中で、日本政府として、I L C に関する明確かつ前向きなスタンスを明示しなければならない時期が、近づいていると捉えている。

本年度になり、国・県に対する予算要望などに際し、改めて「当市においては、社会・経済が厳しい状況

にありながらも、多岐にわたる地域課題の解決に当たっては、「持続可能」と「発展」の双方に貢献する取組を推し進めなければならず、当市の場合、この基盤となる施策として、都市基盤の拡充、とりわけ県内陸部とを結ぶ高機能の「横軸道路」の整備促進や、それと連動した港湾の利活用を促す機能強化などが極めて重要である。」と力説している。

これは、基盤整備施策間の相乗作用の重要性も訴えているところであり、この相乗作用を生み出し、かつ、その効果を大きくするものの一つが、I L Cであると捉えている。

さらに、国に対して、こうしたI L C実現の意義に加えて、「不足」との指摘がなされている、「国民のI L Cに対する関心と理解」を一層高めながら、関係省庁の一体となった議論を加速し、日本にとって重要な国際プロジェクトであるI L Cを早期に実現するよう、強く求めている。

このようなことを受けて、我々としても、I L C実現に向け、岩手県を始めとする関係機関・団体とともに、今一度、奮起しなければならないと認識している。

皆様には、こうした事情を深く御理解いただき、一層の御尽力をお願いしたい。

ここからは、大船渡市I L C推進協議会規約第6条第1項の規定により、淵上会長が議長となり進行した。

○ 議案第1号 令和5年度事業報告について

議長が事務局に議案第1号の説明を求めた。

事務局の大船渡市I L C推進室次長が、総会資料に基づき議案第1号について説明した。

事務局説明後、議長が各会員に質疑等を求めたところ、それらはなく、議案第1号は承認された。

○ 議案第2号 令和6年度事業計画（案）について

議長が事務局に議案第2号の説明を求めた。

事務局の大船渡市I L C推進室次長が、総会資料に基づき議案第2号について説明した。

事務局説明後、議長が各会員に質疑等を求めたところ、下記のとおり発言があった。

「2 I L Cの誘致・実現に向けた要望活動」に関する質疑応答

質問者：大船渡商工会議所 米谷会頭

内 容： 昨年、商工会議所で文部科学省に要望した際、反応があまり良くなかったが、市長等が国に要望活動した際の反応はどうか。

回答者：大船渡市I L C推進協議会 淵上会長

内 容： 文部科学省においては、ほぼ毎年同じような厳しい対応である。予算化はされているが、その先のつながりが全く見えていない。だからこそ、関係省庁への要望が必要なので、関係自治体との連携を深めながら、積極的に、機会を捉えて要望していきたい。

質疑への回答後、議案第2号は承認され、議事は終了した。

次に、次第「4 その他」については発言がなく、閉会した。

なお、総会終了後、岩手県副知事 佐々木淳氏より「国際リニアコライダー（I L C）計画の実現について」と題し、講演をいただいた。